

岐阜女短大 ○三島仁美

奈良女大家政 中川早苗 片山陽次郎

目的 現代の女性達が 衣服に求めているものは何であるのか。これを 衣服の機能の面にとらえ 既製服購入の際の主眼点として探ることを目的とする。「購買行動(従属変数)」と「購買者の基本属性(独立変数)」、ライフスタイル要因・心理的要因(媒介変数)との関連による。

方法 前述の諸要因を検討し、それより仮説を構成して 統計調査およびその分析によって 仮説検証を行った。分析は 多変量解析法の一つである林の数量化理論第Ⅲ類により 質問に対する反応を処理し 類型設定に有効な尺度をとり出し、ついで析出した尺度(軸)上の得点が互いに近いもの同志をまとめる クラスタ分析で類型化するという手順をとった。実査の概要は次のとおりである。①調査地域・対象…奈良市内の18歳以上69歳以下の女性 ②標本数…600(層化二段抽出法)③調査時期…昭和54年11月12日～11月26日 ④調査方法…アンケート形式による留め置き法 ⑤回収率…79.2%。

結果 衣服の実用的機能(生理的、管理的機能等)は 誰もが不可欠なものとしてとらえている。しかし 付加的機能(象徴的・美的機能等)は 生活全般にゆとり(心のゆとりも含めて)のある人ほど重視しているといえる。購買意識・行動に 最も直接的に影響を及ぼすのは心理的要因であり 特にファッション性に大きく支配されている。